

# 2024年度 上映会 予約受付開始

監督: 桐野直子 | 2011年/HDV/カラー/116分 | 製作・配給: 記録社 | 助成: 文化芸術振興費補助金



青空自主保育の3年間

森っ子

映画

**9月13日(金) 10:00-12:00** (受付開始 9:40) 定員各回 20名  
十日市場町自治会館 (緑区十日市場町816-6) 鑑賞料 1,000円  
託児料 500円/人

**9月14日(土) 10:00-12:00** (受付開始 9:40)  
緑区地域子育て支援拠点いっぽ (緑区十日市場町817-8)

託児あり\*  
(希望者先着順)

鎌倉で40年続く、青空自主保育なかよし会  
里山が育てた子どもたちの3年間の記録映画

9月14日(土)は

上映後(~13:00頃) なかよし会創設者の相川明子さんをお迎えし、  
横浜で活動している私たち青空自主保育「森っ子」現役・OBの母も一緒に  
交流の時間を設ける予定です(飲食OK)

<事前予約制> ご予約はQRコードよりお申込みください  
お問い合わせ [kazenoko.yokohama@gmail.com](mailto:kazenoko.yokohama@gmail.com)  
詳細 青空自主保育「森っ子」ブログ・instagram



ご予約

※ 託児(いっぽ内):1才~未就学児  
託児スタッフはいっぽ保育隊と  
森っ子の母で担当させていただきます  
上映会場にも簡易キッズスペースあり

# 里山が育てた子どもたちの3年間の記録



いのちの放つ光彩を見てほしい 監督 桐野直子

まだオムツもとれていない1歳児が、覚束ない足取りで泣きながら山道を登り下りする姿に、当初は驚き、戸惑った。「なぜこんな小さな子どもにこんなことをさせるのだろうか？ かわいそうに・・・」と。

専任保育者とともに交替で保育当番にあたる親たちは、子どもの行動を静かに見守るだけ。たとえ斜面を転がり落ちて、ケンカをしても「口はチャック、手は後ろ」というのが、「青空自主保育なかよし会」の流儀。その一貫した姿勢にも閉口したものだ。

しかし三年間の撮影を終えた私は今、子どもはおとなが育て、おとなによって育てられるだけの存在ではなく、自らの力で育っていく存在なのだということを彼らに教わったと感じている。私たちおとなに必要なのは、子どもたちがその天分を存分に発揮できる環境を整えてやることなのだ、改めて自戒する。

野山や海や川という自然のなかで、友と助けあい、諍いながら、身体にも心にも栄養を蓄えていく子どもたち。かけがえない人生の始まりの時。そのいのちが、それぞれの光彩を放ちながら育ちゆく日々を、一人でも多くの方々に見届けていただきたいと思っている。

## 鎌倉で40年続く、青空自主保育なかよし会



創設者 相川明子

1985年になかよし会を創設、専任保育者。鎌倉中央公園で保全活動をするNPO法人山崎・谷戸の会理事長。子どもたちには優しく親たちには厳しくも温かい、なかよし会のお母さんの存在。

### 自然の中で遊ぶ、1・2・3歳児

なかよし会は特定の園舎を持たず、お弁当と着替えをリュックに背負って、鎌倉中央公園を拠点に、様々な場所へ出かけます。晴れの日も雨の日も、けもの道を歩き、生きものや自然とふれあい、泥んこになり、ときには畑で野菜を収穫したり、海まで出かけたりしながら思い切り遊んでいます。

### 自主保育で親が育つ

保育園や幼稚園に預けるのではなく、親自らが保育に携わり運営しています。具体的には、親は交替で保育当番をします。活動には専任保育者1名と当番の親1、2名が同行します。また、様々な役割を分担し、力を出し合って運営しています。

### なかよし会の書籍

記録本

土の匂いの子

編著 相川明子(創設者・専任保育者)  
発行 コモンズ

レシピ本

山ごはん 畑ごはん

制作 なかよし会3・4期

絵本

谷戸であそぼう 春・夏

文 相川明子(創設者・専任保育者)  
絵 とみたしょうこ (なかよし会2・3期)  
発行 富山房インターナショナル



### 親たちの声 保育当番日誌より

初めての父当番に入った日のこと。ハイキングコースを想像していた自分は、正直絶句だった。見上げれば「けもの道」だけ。そんな自分をよそに、子どもたちはまさに「水を得た魚」状態。取り残されないように、とりあえず娘についていく。3歳には危険いっぱいにはしか見えず、ヒヤヒヤし通しの私をよそに、子どもたちは「ムカゴ」やおみやげ探しに夢中になっている。21期 父

父は驚愕

母は葛藤

見守りに徹することには、入会して一年経った今も大きな葛藤がある。でも、子ども自身が気づく、感じる、考える、失敗することすらも子どもにとってはさまざまな経験を積む貴重な機会。おとなの「余計なひと言」で奪ってはいけないのだと気づいた。26期 母

